

南と紫

karinomaki

## タッチ

---

一昔前に大流行して、アニメ化された、あだち充さんの漫画で、「タッチ」というのがありますね。この漫画の、「朝倉南」というヒロインについて、私なりに考えを書きたいと思います。  
(南ファンの方にはごめんなさい。私は南が大嫌いです。)

## 南ちゃん

---

南は、みんなに「南ちゃん」と呼ばれ、容姿端麗、料理もでき、性格もよく、面倒見のいい、高校生たちのアイドルです。しかし、私から見れば、どこがいいのかわかりません。

## 南の罨

---

南ちゃんは、男を罨にかける天才に見えて仕方ありません。新体操をやって、一躍スターになりますが、自分が夢や情熱をかけてやっているのではなく、浅田真央とは180度違います。最後は、恋人の達也の応援がない彼女は、プレッシャーに負けそうになります。駆けつけた達也の存在で、ようやく総合優勝します。負け知らず、挫折も知らない人として幸せになって話は終わりです。南のドラマは、恋愛にすぎることだけなのです。

では、なぜ、「罨」と言ってしまうほど南が汚いと私が考えているかということ、南は、「夢」の二股、という、いちばんあるまじきことをしているのです。夢が二つあることでは決してありません。好きでもない男に甲子園に連れて行ってと言って気を引くようなことをして、（実際には気を引いてはいないのですが、その男は南を真剣に愛していて、南のために本気で野球の猛練習をするのですから、同じことです。）しかも、本当に好きなのは、お嫁さんにしてほしいと言うのは、あろうことか、その男の双子の兄なのです。

## 弟の死

---

その弟は、甲子園を目前に、事故死します。そのため、兄の達也と南は、好き同士ですが、大きく距離を置きながら、物語は終盤を迎えます。

南は、今度は、達也に、「甲子園に連れて行って」と頼むのです。女の魔物ですね。弟は死後の世界からどう見ているのでしょうか。

## 源氏物語

---

話は変わって、今度は源氏物語のヒロイン、紫の上の話をします。

この人は、悲劇のヒロインです。源氏物語はタッチと違って、深いのです。

源氏物語の主人公の光源氏は、生粋の女っただしです。紫の上を妻にしたのは、真剣に愛する、継母の藤壺に、紫が生き写しだからです。

最初は源氏の愛は、いちばん自分に注がれていると思い、ある程度思い上がりがあった紫も、次第に、真相にうすうす気づいていきます。

## 南と紫

---

紫は、南と似通ったところがあります。なんというか、一見非のうちどころがないのです。良妻賢母で、実子を持たなくても、ライバルの子供を引き取って見事に育て上げ、最後はライバル（明石の上）に、その子供を返して和解します。大団円と思いきや、最後にどんでん返しがあります。源氏が、紫よりはるかに身分が高く、若い、そして心が幼い女性を正妻にしてしまうのです。

自分こそが正妻と思い上がっていた紫の人生は、坂道を転がるように落ちていきます。それでも、紫の意地とプライドは、紫をゆがんだ女性にはさせません。

この辺が、紫の見事なところなのですが、南には、その美しささえありません。達也に惚れてつきまとう新田由加に敵対心をむき出しにし、いやみを言われた腹いせにトイレに閉じ込めたりするのです。

## 個性と自分

---

この世では、個性よりも、男性から見て好ましいと思われる女性の方が尊重されるのでしょうか。そんなに、男性中心の世界なのでしょうか。

紫の上も、南も、ほとんどの読者が、「理想の女性」と言います。南にあこがれて野球部のマネージャーになる人や、「南ちゃんがいる」と思って野球部に入る人がいると聞きました。しかし、二人とも、私から見れば、「自分」と向き合っていません。

男性に、好きな人にどう思われたいかが中心の人生で、輝きがありません。

そんな無個性の、人形みたいな女性が、少しでも自分を取り戻して、自分らしく生き生きと生きてほしいです。